

●竹蛇籠の取組 試作品第 1 号半分のところまで出来上がる もうひと踏ん張りで完成へ

一番苦労する最初の骨組みから立ち上がり胴巻き部分の二筋目までは進むことができました。ここで柱骨を追加すると混乱が生じて正確に進めることができず、2 回とも進展できなくなっていました。もう少しの猶予と試作時間が必要です。一緒に考えていただく皆さんの知恵をお借りしたいものです。これまでの学習研究会で判明したポイントをお知らせいたします。

- 1 : 12 本に加えた 1 本 合計 13 本の骨部分は右から立ち上げるものは交差するとき下側に潜る
- 2 : 回っていく 8 本目は交差した場所にくっつき小さな三角を作らないように締め上げていく
- 3 : 交差する場所は三本がしっかり固定して隙間を作らない
- 4 : 交差する場所は横巻木と横巻の中間に位置すること、竹はできるだけ柔らかに曲がるようにすること
- 5 : 全ての竹材を曲がりや、節を除去し割り裂くなど事前の準備を行い、幅も揃え均一の資材に整える
- 6 : 胴巻きが交差部を過ぎると次の先の交差点を固定すると次の作業が整理されるので進めやすくなる
- 7 : 最初の底辺の組み方が真逆になっているらしいのを注意すること。

以上 7 点です。以後の試作学習研究会は 9 月 20・21・24 日を計画しています。いずれも 9 時から 11 時 30 分まで。

●木津川希少種植生調査管理業務の申請書を提出

公募用紙には 10 月初旬から業務の開始とされている。来週には契約書の提出が求められるのではないかと予想しています。業務内容は里山の会が長年調査してきた 107 か所の希少植物の生育確認と 21 か所の維持管理の除草作業を年 2 回の実施となっています。私たちが長年にわたって自主的に管理してきた場所を、業務として位置づけ、淀川河川事務所の維持点検保全に動き出したことになります。画期的な出来事で大変な前進です。これまで多くの皆さんの努力がようやく実ることになりました。歴史的な出来事であります。この成果を関係者の皆さんに伝えることができてともに喜びあいたいと思います。国交省淀川河川事務所の英断に感謝いたします。契約が結ばれれば里山の会として精一杯頑張らしましょう。全国の一級河川において NPO によって希少植物の保全管理と調査が行われるのは、全国で木津川が最初ではないでしょうか。

●会誌 43 号の原稿の提出

準備いただいている皆さん大至急御願います。締切日は 20 日でした、お願いします。調査研究部門で桜谷先生から、7 月 15 日に実施した夜の生き物調査の報告文章を送付いただきました。大変ありがとうございました。先日は当日に集まってきた撮影された昆虫の素晴らしい写真が金田さんを通じて届けていただいています。併せて会誌 43 号に記載させていただきます。ご期待ください。

●折茂武彦氏(47 歳)がプロバスケット選手として 6000 得点を達成された記録のテレビを見た

倒産したプロバスケットボールチームの社長と選手の二足のわらじを履くもとなっていて、巨大な債務の返済に追われる傍ら、4 社の支援組織から 6 年間 180 社の支援会社を組織された。選手はオフ・シーズンには充分休養を取り来たる新シーズンに備えるのですが、社長を兼ねるので一日も休日はなく、表敬訪問に明け暮れた。謝金の返済ができた 6 年目、単年度黒字になった、そしてバスケットはマイナーな種目なので、観客のいない会場で東京時代は試合を行ってきた。しかし北海道に移籍すると会場は地元の人々で満員応援がすごい、負けても、負けても応援を続けてくれるファンがおられる。待ちを歩くと応援の挨拶がある。地元や「周りの人々」の熱い期待暖かなものをものすごく感じた。東京時代には感じられなかった温かさが伝わってくる。と話され、地域のファンを大切にする人間に大きく変わったと

話されていた。さらにこれから地域に貢献し、プロバスケット選手が食べていけるスポーツに発展させたいと話されていた。自身の変化を遂げ、年齢や体力の限界を超えて頑張る姿に心を打たれました。

● 10月14日を中心とした県外現地視察研究会の実施を検討とお知らせいたしました

京の川の恵みを活かす会から活動紹介の発表依頼が入り、日程変更をせざるを得なくなりました。ご都合を繰り合わせていただきました皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。中止変更となった事態に改めてお詫びいたします

●やましろ里山の会の木津川希少植物の管理地は107か所と判明しました

これまでのデータとこの10年間に発見された資料を加えて整理した基礎データで、木津川の植生を表す貴重な資料となるものです。整理集約された107か所のデータをもとに正確な調査記録を加えて、希少植物の実態の最新資料の作成を行なうことになります。2017年度に数回、そして2018年度にも数回の調査を行って、さらに充実した正確さを増したまとめとなります。植物部会の皆様のご奮闘を期待し、関心を持っておられる皆さまのさらなるご協力をお願い申し上げます。

●9月20日午後5時に念願の自力による竹蛇籠が完成

午前中は事務局会議でした。午後1時30分から4回目の試作に取り掛かりました。前理事長の深田さん、新理事の有田さん、そして常務理事の山村の三人で素材の竹の幅の調整、節とり、曲がりやすく扱いやすくなるよう竹に日々を入れるなど念入りに準備を行って、**何が何でも今日は成し遂げるぞ!**と固い決意をして挑みました。有田さんは何度も何度もモデルを使って組んではほどき、組上げてはほどきを机上で繰り返し、組立手順を完璧に覚え込んでこられました。山村や深田さんは正確な材料の確保に時間を割きました。そして現場での組み立てをこれでもかというほど失敗を繰り返し、竹の扱い方を学びました。この無駄と思われる失敗の経験から「完全素人」の私たちを育ててくれたことと思っています。竹の扱いやおおよそのツボを経験させてくれ古来工法・先人の知恵の奥深さを理解できたようです。今回は特に落ち着いて焦らず時間をかけて、念入りに進みました。2時間の格闘の末80%が出来上がりました。そして長さ確保のために竹を接ぎたして仕上げました。作業時間は3時間でした。出来栄はお世辞にも素晴らしいとは言えませんが、小さなモデルを唯一の参考にしての自力による完成へのこぎつけた立派な作品です。深田さんは、自宅で一番難しい底の模型を作り上げました。森島さんは自宅の庭に竹を持ち帰り、忙しい時間を割いて組立を繰り返して腕を磨いていただきました。このように見えないところでの積み重ねがたくさんあって、完成に到達できました。21日には製作時間の短縮、スタイルに気を付けての出来栄や均一の寸法に仕上げられるための手順等さらに精度を上げた改善に挑みます。そして、経験を積み上げ、誰でも取り組み普及ができるよう腕を磨きたいと思います。一度でも練習研究にご参加いただき、気づきを共有して改善しましょう。あなたのご参加をお願いします。